

2019年度 山梨南中学校学校経営の概要

1 校訓 『日に新たに』

2 学校教育目標

日々に新たな心で、真理を求め、自ら考え、正しく判断し、進んで行動する生徒の育成

- ① 自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる生徒の育成
- ② 自らを律し、他人を思いやる豊かな心をもつ生徒の育成
- ③ たくましく生きるための健やかな身体をもつ生徒の育成

3 学校経営の基本方針

- (1) 適切な教育課程を編成し、PDCAサイクルによる評価と改善に努める。
- (2) 分かる授業を目指し、生徒一人一人の確かな学力の向上に努める。
- (3) 明るく楽しい学校を目指し、いじめや不登校等の早期発見・早期対応に努める。
- (4) 学校安全や生徒指導などの危機管理体制の充実に努める。
- (5) 家庭や地域、小学校との連携を図り、信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員相互の「信頼と和」を築き、互いに協力し支え合う職場づくりに努める。

4 本年度の重点目標と具体的努力点

- (1) 知・徳・体の調和を重視し、「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施

次期学習指導要領を見通し、指導計画の改善と充実に努める。

- ① 小学校と接続を意識した教育課程の編成のため、合同研究会や授業交流等連携を積極的に行う。
- ② グローバル人材の育成を目指し、外国語教育を充実させ、生徒の英語力の向上に努める。
 - ・ CAN-DO リストを基にした授業づくりを行う。
 - ・ 英検等の検定試験の受験を推奨する。
- ③ 教員が生徒と向き合う時間を確保するため、多忙化解消の取組を積極的に進める。
- ④ 社会的課題に対する生徒の意識の醸成のため、外部講師を招聘した学習会を開催する。
 - ・ 1年：交通安全教育 2年：薬物乱用防止教育 3年：エイズ教育、租税教育

- (2) 確かな学力と自立する力の育成

ICTの積極的な活用を図る中で、主体的で対話的な深い学びの実現に向けた授業改善に努める。

- ① 教科の継続的指導により基礎的・基本的な学習内容の確実な習得を図る。
- ② 「やまなしスタンダード」を積極的に取り入れ、分かる授業の実践に努める。
 - ・ めあて（目標）の提示と評価（振り返り）を常に意識した授業づくりに努める。
 - ・ 言語活動を意図的に仕組み、思考力・判断力・表現力等の育成に努める。
 - ・ 学んだことを別の場面で使えるよう、活用・探究の学習を積極的に実施する。
- ③ 主体的な学習態度の育成に努める。
 - ・ 授業規律の確立（チャイム席、忘れ物ゼロ、授業中の集中力アップ等）を図る。
 - ・ 自主学習ノートの取組等を通して、家庭学習の充実と学習習慣の確立を図る。
 - ・ 自学の時間、夏季休業中の補修学習等の充実に努める。
- ④ 学力・学習状況を把握し、課題を共有する中で、学力向上のための授業改善に努める。
 - ・ 全国学力学習状況や県学力把握調査の結果分析と改善策を共有する。

- (3) 「豊かな心・しなやかな心」を育み、生徒の自己実現を図る力の育成

適切な生徒理解と居場所づくりに努めると共に、道徳教育の充実に努める。

- ①いじめ・不登校の未然防止に重点を置き、早期発見・早期対応に努める。
 - ・いじめを許さない集団づくりと不登校生徒が生じない環境づくりに努める。
 - ・不登校の生徒に応じた「個別の支援計画」を作成し、きめ細かい支援を行う。
- ②「特別な教科 道徳」の趣旨を踏まえた授業づくりを通して、心の教育の充実に努める。
- ③生徒一人一人の特性に応じた的確な生徒指導に努める。
 - ・生徒指導の土台は学級にあることを確認し、認め合い学び合う学級づくりに努める。
- ④生徒の社会的・職業的自立を目指し、体系的・系統的なキャリア教育の充実に努める。
 - ・1年：職業調べ 2年：職場体験・進路学習 3年：進路指導
- ⑤「生徒の自主・自立」を尊重した生徒会活動の充実に努める。
- ⑥節度ある部活動のもと、体力・技能等の向上と自主性及び好ましい人間関係の育成に努める。
 - ・月2回の「きずなの日」を設定する。
- ⑦読書活動、文化芸術活動、美化活動等の充実に図り、潤いのある学校づくりを進める。
- ⑧体験学習活動の充実に図り、人・文化・自然との関わりを深める中で豊かな人間性を育成する。

(4) 健康でたくましい体の育成

体力の向上と健康教育の充実に努める。

- ①保健体育や体育的行事、部活動等の充実に通じて、体力の向上を図る。
 - ・「一校一実践」や体力テストの結果に基づく授業改善を進める。
- ②「食」「安全」「心身の健康の保持増進」の指導を関連させ、健康教育の充実に努める。
 - ・「食育推進一校一実践」及び食育の推進に努める。

(5) 一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実

自立・社会参加に必要な資質の育成に努める。

- ①校内委員会のもと、全校的な教育支援体制を確立する。
- ②生徒の実態に応じた適切な教育課程、指導形態を工夫し、一人一人を伸ばす指導評価に努める。
- ③「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し、切れ目のない支援を行う。
- ④通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒への適切な指導と配慮に努める。

(6) 安全・安心な教育環境の整備

生徒の危機管理意識を高め、安全管理体制の拡充に努める。

- ①安全教育の充実に図り、生徒の危険予測や危険回避能力の育成に努める。
 - ・実践的な防災・防犯等の訓練を計画的に実施する。
- ②施設・設備を定期的に点検し、安全な教育環境の整備に努める。
- ③学校安全に関する校内研修を実施し、教職員の対応能力や指導力の向上に努める。

(7) 家庭・地域に信頼される学校づくりの推進

家庭・地域との連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。

- ①学校改善に繋がる学校評価を充実する。
 - ・年2回の学校評価と学校関係者評価を実施し、結果公表を行う。
- ②保護者・地域・関係諸機関等との緊密な連携を図る中で、学校の諸課題の解決に努める。
- ③教育活動や行事の調整等を行う中で、生徒が地域行事へ積極的に参加できるよう配慮する。
- ④学校・学年・学級通信等を活用し、積極的な情報提供に心がける。

校内研修計画

山梨南中学校

1. 学校課題

全体的にはしっかりと挨拶ができ、素直な生徒が多い。また、意欲的に学習に取り組む生徒が多い一方で、自分なりのことばや図や表などを用いて表現する力や自分で考え、判断して問題解決を図ろうとする力などは、まだ十分とは言えない状況が見られる。

2. 研究主題

「 確かな学力の定着・向上を目指した授業改善の工夫 」

～ 自主学習の質的向上を目指して ～

3. 主題設定の理由

2016年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、学習指導要領が改訂され、中学校では2021年度から全面実施となる。次期学習指導要領については、学習する子どもの視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」を見据えた改善が図られる。特に、子どもたちが「どのように学ぶか」に着眼して、学びの質を高めていくために、「学び」の本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「アクティブ・ラーニング」の視点から授業改善の取り組みがすでに進められており、山梨県においても学校教育指導重点に盛り込まれ、推進が図られている。

本校では3年前より「確かな学力の定着・向上を目指した授業改善の工夫」を研究主題として校内研究を進めてきており、今年度で4年目を迎える。平成28年度では授業の中での「やまなしスタンダード」の定着、特に、授業前のめあての確認や授業後の振り返りに重点を置いてきた。そして、平成29年度では平成28年度の研究に上積みするかたちで、「やまなしスタンダード」を意識しながら、言語活動を取り入れた授業などが実施されるようになってきた。また、平成30年度は、言語活動を取り入れた授業に加えて、昨年度までの研究であまり深まりが見られなかった活用・探求型の授業にも重点を置き、生徒たちの確かな学力の定着・向上を図ってきた。

これまでの3年間で「確かな学力の定着と向上」を基本テーマとし、とくに、学力向上のために「やまなしスタンダード」をベースとした構造的な授業づくりについて研究を行い成果をあげていると思われる。そして今年度は、授業を通してどう教えるか(Teaching)から、生徒がどう学ぶか(Learning)へと視点を広げ、確かな学力を定着するために生徒はどのような学び方ができるかについて研究することで学びの質的向上を目指したい。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 全体研究会

- ・「確かな学力の定着・向上」を目指して生徒の効果的な「学び方」について研究する。
- ・とくに、自学ノートの取り組みの質的向上を目指した研究を行う。
- ・「中学道徳」を活用した具体的実践例について学ぶ。

(2) 教科別研究会

<各教科> 年に3回(6月, 8月, 2月)

<分析部会> 年に2回(6月・8月)

- ・全国学力学習状況調査や県学力把握調査などの分析と対策を検討
→ その後の授業改善に生かす
- ・結果の分析結果情報を共有し、他の教科においても授業改善に生かせる部分は生かしていく

(3) 学年別研究会 年に3回(8月, 12月, 2月)

- ・学びの質的向上を目指した学級・学年集団づくり
- ・Q-U検査の分析 → 個への対応, 集団づくり

(4) 授業研究 (9月：学年 10月：初任者 (体育) 11月：学年 1月：初任者 (道徳))

①研究授業のテーマ

- ・授業と自主学習とのつながり
- ・「やまなしスタンダード」の7つのどの視点を取り入れた授業なのか
- ・主体的な学び、対話的な学び、深い学びのうちのどの学びを意識した授業なのかを明確に

②新採の森脇先生の授業研究については、10月に体育、1月に道徳を行う。

③各学年 (教科/学活/道徳)

④可能な限り、指導主事を招聘して授業研究を行う。

(5) キーワードとして考えられるもの

- ・自主 (自主/主体)
- ・確かな「学力」
- ・動機付け (モチベーション) → 選択理論・ARCS・内発/外発
- ・自律 (自律した学習者) → プランニング・モニタリング・ストラテジー

年間校内研修計画

研究主任 平井 成二

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C 要請
主題 「確かな学力 の定着・向上を 目指した授業 改善の工夫」 ～自主学習の 質的向上を目 指して～	<全体研究会> ①研究の方向性や研究主題などの確認 ②自主学習についての学習 ・確かな学力の定着や向上に繋がる 「自主」学習とは ③自主学習とのつながりを意識した授 業実践について ④教育課程学習会の報告・共有 ⑤各種学力調査の分析結果の共有 ⑥道徳科授業実践に関する学習会 ⑦研究のまとめ	森脇	1年	9月 11月 1月	予定 予定 予定
	<教科別研究会> ①各教科の研究主題に迫る取り組み ②各種学力調査の結果分析 ③授業研究 ④研究のまとめ				
	<学年別研究会> ①Q-Uの分析 ②研究のまとめ				